

人とのつながりを大切に



# 同好会ひろば

第255号  
H27. 10. 28  
No.4

## 授業力アップ研修グループ活動報告

授業力アップ研修グループは、社会科を中心とした授業力の向上、次世代を担う教師として必要な能力の育成、そして、会員相互のつながりを形成することを目的に研修を行っています。こうしたねらいを受け、今年度も昨年度に引き続き、指導者のリーダーの先生に加え、ミドルリーダーを育てるという観点からグループ活動の推進者としてサブリーダーの先生をお願いしています。リーダーの先生には、それぞれのニーズに合わせ、社会科の授業だけでなく様々な授業や日頃の学級経営など幅広く、教師としての力量向上を図るために指導していただいています。サブリーダーの先生には、会の司会進行、テーマ設定、日程調整などを、リーダーの先生と相談して行っていただいています。

今後も、各グループで自主的な研修活動を進め、今年のキャッチフレーズである「人とつながり、共に高め合う」同好会活動をさらに具現化して行ってほしいと思っています。

## 授業力アップ研修グループを訪ねて

各授業力アップ研修グループでは、2学期の実践検討を中心に研修が進められています。今回は9月11日（金）に行われた小6グループの活動を取材させていただきました。

【小6グループ 9月研修会】 9月11日（金） 於：原小学校

リーダー	中村 直子 先生	長瀬 渡 先生		
サブリーダー	加藤 洋将 先生	佐々木拓生 先生		
メンバー	加藤 一輝 先生	小林 直寛 先生	大島 風花 先生	
	高橋茉莉江 先生	本間 研児 先生	松岡 知幸 先生	
	田中 隆晃 先生	岡 沙織 先生	田添 将吾 先生	
	原口 昭教 先生			

サブリーダーの加藤洋将先生の司会のもと、和気あいあいとした雰囲気の中で、2学期実践の方向性や体験記録の書き方、生活指導についての悩みなどが話し合われていました。



授業の悩みを聞いていただけたことで「次はこんな授業展開にしてみよう」と具体的に考えることができました。初めて体験記録を書こうと思っているので、テーマの設定や考察の仕方を詳しく教えていただき勉強になりました。  
(岡 沙織 先生)



学校での授業実践での手立てで迷っていましたが、グループリーダーの先生に相談させていただき授業実践の前段階からできることを知り、勉強になりました。  
(加藤 一輝 先生)

## 【第255号 紙面】

授業力アップ研修グループ活動報告・・・(p1)	日々雑感 守山養護学校教頭 岡島正樹先生
訪問インタビュー 山内 雅夫 先生	・・・・・・・・(p6)
・・・・・・・・(p2・3)	同好会ホームページについて
小学校部会の活動報告・・・・・・・・(p4)	・・・・・・・・(p6)
中学校部会の活動報告・・・・・・・・(p5)	今後の予定・・・・・・・・(p6)

## 山内 雅夫 先生

名古屋市の社会科教育を発展させるため、名古屋市社会科研究会委員長、名古屋市社会科同好会会長などを歴任された山内雅夫先生。先生のご様々なご経験を基に、今後の同好会活動を充実させていくための貴重なお話を伺いました。



### <経歴>

昭和50年、名古屋市立伊勝小学校に着任。以降、南押切小、笹島中、高針台中を経て、教育センター指導主事に。その後、白山中学校長、指導室指導主事等を歴任される。また、千種台中学校長、川原小学校長を経て、定年退職される。

現在は、愛知教育大学教職大学院にて、特任教授としてご活躍されている。

### 愛知教育大学教職大学院について

愛知教育大学教職大学院では、特任教授として、「協働する学校づくり」「特色ある学校づくり」などをテーマに講義を行っています。また、名古屋市の小・中学校に出掛け、教職大学院で学んでいる先生方や院生の授業を参観し、授業の内容や進め方について指導を行うこともあります。

教職大学院では、現職の先生と学生を合わせて100人以上の人が学んでいます。名古屋市からも5人の先生が学びに来ていますが、これまでの実践を振り返り、実践の理論を裏付ける根拠を明確にすることができます。また、研究の成果を、科学的な根拠を基に処理する力を身に付けたり、自分の研究を客観的に見つめ直したりすることもできます。

### 教職大学院での講義について

学校の中核として活躍している現職の先生を対象にした講義では、自分の経験を交えて、次のような話をしました。

学校を運営する責任者は校長ですが、実際に学校の仕事を進めていくのは、教務主任や学年主任、校務分掌の担当者です。校長として、学校全体をマネジメントしていく際には、「リーダーの資質とは何か」「どのようにリーダーを育てていくか」などを、常に考える必要があります。

ただ、仕事を任せるのではなく、若手の先生と中堅の先生を組み合わせることで、若手の先生は、中堅の先生に相談しながら安心して仕事を進めることができます。また、中堅の先生は、若手の先生を指導することで、リーダーとしての役割を果たすことができると思います。

### 今後の教育現場に求めることについて

#### 《オールマイティーとスペシャリティー》

子どもから見ると、小学校の先生は何でもできるスーパーマンです。では、職員間ではどうでしょうか。小学校の先生は様々な教科を教えるのでオールマイティーです。その上で、「社会科に関わることなら自分に聞いてください」と言えるようなスペシャリティーになってほしいものです。反対に、中学校の先生は教科のスペシャリティーです。その上で、自分の教科以外の

ことも知っているオールマイティーになっていくことが望ましいです。社会科の先生には、オールマイティーとスペシャリティーの両方持ち合わせることを期待しています。

### 《迷ったら二者択一》

仕事をしていると様々な決断を求められます。何かを決断しなければならないときには、全ての選択肢の中を横並びにして一つを選ぶのではなく、選択肢を一つずつ順に二者択一していきます。選択すると結論を出したら、残りは考えなくて済みます。そして、決めたら迷わず、一生懸命に打ち込むべきです。「思い立つ」ではなく、「思いを断つ」ことも時には必要ではないでしょうか。

### 《教員の財産はネットワーク》

誰にでも得意、不得意はあり、困った時に、頼れるようなネットワークを作っておくことが大切です。様々な経験を重ねていく中で、様々な分野でのネットワークが広がっていくものです。私たちは、教員の中のネットワークは持っていますが、教員以外のネットワークはどうでしょうか。自分の住む地域、高校時代の仲間など、様々な分野でのネットワークをもっていることが、教員としての大きな財産となります。また、自分の思いとは違った道に進んだとしても、その先で築いたネットワークは、新しい財産となります。



教員として大切にすべきことや、今後の社会科教育の在り方などに対して、多くのご示唆をいただきました。

人とのネットワークという財産は、本当に大切にしていかなければなりません。

### 《1日24時間。どう使うかによって人は変わる》

1日が24時間であることは、誰にでも変わらないことであり、その時間をどのように使うかで人は変わっていくものです。おおよそ1日の3分の1は仕事、3分の1は寝ています。残りの3分の1が大切です。同好会の活動に参加するのも、「何かを得よう」と思って出掛けるのではないのでしょうか。体力的に余裕がある若い先生は、時間を大切に使って、自分を成長させてほしいと思います。

### 今後の社会科教育について

社会科は「ものの見方・考え方」を育てる教科です。また、社会科は、答えを教えるのではなく、問題解決的な学習を行っていく教科です。そのため、社会科における答えは一つではなく、「どう考えるか」「考えた根拠は何か」を説明できることが大切です。社会科の授業づくりを進める上で、来年度の全小社研名古屋大会はよい機会です。3会場の学校で授業を公開されますので、多くの先生の授業を見ていただくことができます。

名古屋市社会科同好会ほど、熱心に社会科の授業づくりに取り組んでいる研究組織は全国的にも数少ないと思います。また、授業実践の理論が、子どもの実態を踏まえて構築されてきています。その取り組みを、全国に自信を持って発信してほしいと願っています。

## 9月小学校部会活動報告 9月4日(金) 於: 愛知県スポーツ会館

2学期の小学校部会では「考えの深まりを自覚する個の振り返り」と「学習の見通しをもつための学級全体の振り返り」に焦点を当てて研究に取り組みます。  
提案された各学年の実践の振り返りの工夫は、以下の通りです。

学年「単元名」	一人一人が考えの深まりを自覚する振り返り	学級のみんなで見通しをもつ振り返り
3年生 「農家の仕事～ぶどうを作るAさん～」	分かる段階において、学習のまとまりごとに「桶狭間ぶどう」の生産と普及に携わる人々の関係を図に表し、図内に人々の思いを記述する。	「桶狭間ぶどう」作りの工夫についての予想の記述と、一般的なぶどう作りの流れが分かる表を常掲し、分かったことや疑問を共有できるようにする。
4年生① 「事故や事件から暮らしを守る」	学習のまとまりごとに、事故や事件から市民がどの程度守られているかを4段階の尺度を使って考えを表し、その理由を記述する。	個の振り返りの内容を発表し合い、分かったことと分からないことを全体で確認する。
4年生② 「きょう土を開く～名古屋の発展の基礎を築いた吉田禄在～」	分かる段階と関わる段階において、毎時間の学習内容や感想、疑問を自由に表記する。	禄在の思いを記述した吹き出しを用いて年表・新聞作成を行うことで、考えを交流する。
5年生① 「自然災害を防ぐ」	毎時間、自然災害を防ぐための工夫や努力について、分かったことや考えたことを記述し、蓄積する。	互いの考えを掲示したり、個々の文章記述を互いに見合うことができる場を設定したりして、分かったことや疑問を共有できるようにする。
5年生② 「自動車をつくる工業」	毎時間、自動車づくりの工夫や努力について、分かったことや考えたことを記述し、蓄積する。	過去から現在に至るまでの自動車づくりについて、調べて分かったことや疑問を共有できるようにする。
6年生① 「町人の文化と新しい学問」	分かる段階において、町人文化や新しい学問が与えた影響に対する考えを記述し、蓄積する。	学習問題への予想と追究のめあてをまとめて常掲し、追究のめあての中で、調べて解決したことにシールを貼るようになる。
6年生② 「長く続いた戦争と人々の暮らし」	分かる段階において、15年間続いた戦争が人々に与えた影響を記述し、蓄積する。	「外国での戦い」「人々の生活」「終戦」という視点ごとに疑問や分かったことをまとめて常掲する。

### ご指導・ご助言 名古屋市社会科研究会副委員長 正保小学校 須田 洋先生

- 学級全体で学習を振り返るのは、次への見通しをもって、子どもが自分たちで追究を進めていくことができるようにするためである。そのためには、一人ひとりが、何が分かり、何を考えることができたのか、足りないことは何かを自覚できていることが前提となる。これが個の振り返りと学級全体の振り返りをセットで行う意味である。また、個の振り返りには、学習状況のメタ認知という、もう一つ大きな意味がある。1時間の授業や学習過程の各段階において、子どもが自分の理解や考えの深まりを自覚できるように振り返りを工夫してほしい。
- 平成28年の名古屋大会で目指しているのは、社会への理解で終わるのではなく、態度形成を目指す社会科学学習である。学習指導要領における態度目標が学習のゴールであり、それが「関わる段階」で目指す子どもの姿である。単元における態度目標を具体化し、学習を振り返ることが、態度目標の育成にどのようにつながるのか筋道を立てて実践を進めていきたい。

## 9 月中学校部会活動報告 9月4日（金）於：愛知県スポーツ会館

9月例会では、各分野グループから2学期実践の計画について報告がありました。

地理的分野グループからは、単元「アジアの多様性と経済発展」において、中国における経済発展の要因とそれに伴う課題について、グルーピングした言葉を表にまとめて班全体の考えを視覚化する活動を通して、中国と他のアジア諸国との地理的事象の共通点を見だし、アジア全体としての地域的特色を捉えることができるようにするという実践計画が報告されました。

歴史的分野グループからは、単元「貴族社会の発展」において、各時代を表すキーワード選びとフレーズ作成を行い、段階ごとに小グループの再編を繰り返すことにより、異なる考えや視点を共有する機会を増やし、大陸との関わりを中心に古代の大きな流れと特色をつかむことができるようにするという実践計画が報告されました。



公民的分野グループからは、単元「国際社会と世界平和」において、「フェアトレード」を題材に身近な商品や自らの消費行動が、南北の経済格差や児童労働の問題に深く関わっていることに気付き、弁護士やNGOの方をゲストティーチャーに招き、「公正」「効率」や「実現可能性」といった観点で評価を受ける場面を設定した実践計画が報告されました。

その後の質疑・応答では、地理的分野グループについては、地域の発展の要因と課題について共通の視点で考える場面で、「各項目の表に◎・○・△・×を記入するとあるが、どのような基準でつけるのか」という点について議論が行われました。歴史的分野については、「古代という時代を大観するには、遣唐使停止をめぐる大陸との関わりだけに焦点化してもよいのか」という点を中心に議論が行われました。公民的分野グループについては、「『児童労働や貧困を解決するために、自分たちができることを考えよう』という学習課題は中学生にとって難しいのではないか」という指摘が出されました。



今回は新学期開始直後ということもあり、参加者がいつもより少なかったですが、各分野グループの発表に対して活発な質疑が行われ、2学期実践に向けて議論の深まりが感じられました。

次回（11月例会）は、11月27日（金）19：00から中小企業振興会館で、2学期実践の報告を中心に行います。今年度最後の中学校部会になります。

皆さん、ぜひご参加ください。

今年度4月に養護学校へ赴任し、半年ほど経過した。今まで経験したことのない環境の中で、戸惑いながら日々過ごしている。ただ、こうした戸惑いのある毎日の中で、子どもたちの純粋な表情を見て、心を和まされている。

さて、本校の子どもたちは、将来就労して自立した生活を送るために、日常生活の学習を中心に生活単元の学習や教科の学習に取り組んでいる。社会科も中学生以上の学年で、授業時数は少ないものの学習している。

先日、本校中学部の社会科の授業を見させていただく機会があった。子どもたちは、身近に起こりうる災害について、電子黒板を用いて学習していた。指導者が工夫をして用意した教材に子どもたちは興味を示し、電子黒板を前にして、とても楽しそうに活動している様子が印象的だった。

また、総合的な学習などの体験的な活動と結び付けた授業も見させていただいた。体験活動で訪問した中部国際空港での学習を振り返りながら、外国について学ぶ学習に取り組んでいた。この授業においても、指導者が工夫して作成した教材に子どもたちは大変興味をもち、熱心に活動している様子が印象に残った。

授業の様子を見ていて、社会科は子どもたちが社会に出て自立した生活をしていく上で、欠かすことができない教科だと感じた。また、そのような教科だからこそ、子どもたちが社会に積極的に関わることができるようにするための授業づくりが大切であると改めて感じた。

世の中のすべての子どもたちにとって住みよい社会にするために、目の前の子どもたちをしっかりと見据えた社会科の授業づくりについて今後も考えていきたい。

## 同好会ホームページについて

同好会ホームページが新しくなりました！新しいホームページでは、同好会ひろばや全小社研名古屋大会の情報を見ることができるようになりました。ぜひ皆さんご覧ください！

『名古屋市社会科同好会』で検索！

ホームページアドレス <http://shakaikadoukoukai.suuhun.com>

## 今後の予定

- 11月18日（水）懇親会 19:00～ ルブラ王山
- 11月27日（金）小学校部会 18:30～ 中小企業振興会館
- 11月27日（金）中学校部会 19:00～ 中小企業振興会館
- 12月1日（火）授業力アップ研修グループ全体会 18:50～ 愛知県スポーツ会館  
ご講演 指導室 指導主事 後藤 健之 先生
- 1月15日（金）授業づくり研修会 18:45～ 中小企業振興会館



附属小に勤務されている先生を講師に招き、授業づくりのノウハウを教えてください。

- 1月15日（金）小中合同研究発表会 19:15～ 中小企業振興会館